

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市幸町南児童館	
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク	
3 指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 ・令和5年度 11,085人(前年度比 98.6%) ・令和4年度 11,242人 ・令和3年度 8,149人	
	《事業》 ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業	
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 29,861千円 (27,476千円) ・ その他市が負担した費用 0千円 (0千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 0千円 (0千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。	

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。 また、令和5年度においては努力義務である安全計画を策定し、児童・利用者への安全教育や事故・災害時の対応の共有、事故防止のための体制の構築に努め、利用者の安全確保に繋げている。	31/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	24/24
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場を整え、学校を中心に各関係機関と連携して育成支援に取り組んでいる。また、乳幼児親子向けの行事開催や交流の場の提供により子育て家庭を支援すると共に、小中高生に対して、発達段階に応じた遊びの指導や活動支援を行っている。地域との交流事業においては、日頃の情報交換や様々な工夫を凝らした事業で地域連携の保持に努めている。	18/18

### 三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク）による自己評価》
<p>幸町南児童館では「あふれる笑顔 わくわくじどうかん」を目標に設定し、乳幼児親子や児童クラブ児童が安心して楽しく過ごせる児童館運営に取り組んできた。新型コロナが第5類に分類され、規制が緩和されたことを受けて、乳幼児の自由来館は少しずつ増えてきていた。保護者同士が約束して来館し、お昼も一緒に食べていく姿も見られるようになり、なつかしさを感じた。</p> <p>小学校の児童数は減少してきており、児童クラブの登録人数も減少傾向にある。しかし、自由来館で訪れる小学生や中学生の数は格段に増加してきている。「てふてふお話し会」や「創作ひろば」など、誰もが参加できる行事は賑やかさを増している。</p> <p>コミセンと合同開催の「コミ・カンまつり」は、コロナ前にご参加いただいていたサークルさんが戻り、新しいサークルさんもお参加いただき、学びや体験の機会が増えたのはうれしい限りである。子育て支援クラブ「こうなん」との共催事業も順調に消化できた。手作りパン教室はもとより、寝相アート、クリスマス会、節分豆まき、ヨガ教室、食育講座など多岐にわたり実施し人気が高かった。「段ボール迷路」には初めて取り組んでみたが、子供たちは大盛り上がりであった。</p> <p>行事を通して地域の方々と子供たちが触れ合う喜びは十分に成果が上がったと思うが、今後は「日常的な触れ合い活動」を模索していきたいと考えている。児童館を誰もが気軽に来られるような場所にするためには、子供たちの遊びを通じた交流活動が日々行われることが望まれる。まずはコミセンのサークルさんに呼び掛けてみて、遊びの機会を増やしていきたい。</p> <p>令和6年度から1単位の小さな児童館となるが、登録児童数は令和5年度までとほとんど変わらない。職員が少なくなるので、見守りの仕方や行事の開催方法等実態に合わせて工夫・改善していきたい。今後も笑顔が溢れ、ワクワクする児童館運営を目指したい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>児童健全育成事業においては、令和4年度秋から中高生世代対象の「はッピーサウス」を毎日実施し、卓球やバドミントン等の用具や専有できる環境を整えた事で中学生の利用促進に繋がった。小中学生が共有できる場所を確保した事で小学生と中学生がカードゲームや語らい等で日常的に交流しており、地域における子ども達の居場所となっている。また、小学生対象の行事は制作や運動遊び、季節の行事やおはなし会等、多彩なプログラムを提供しており、遊びを通して子どもの育ちを支援している。</p> <p>子育て家庭支援事業においては、3つの乳幼児向け行事の概要を参加者に伝えることをねらいとして、季節の工作や行事等の多様な遊びを提供している登録制の「さいわいくん」と自由参加の「よちよちドロップ」、地域ボランティアによる読み聞かせやパネルシアターで人気の「ぶちぶちおはなし会」を合同で行う機会を設けた。合同行事をきっかけに新たな交流が広がり、自由来館の増加に繋がった。また「ほっとカフェ」は、のびすく宮城野の子育て相談員の協力を得て、ふれあい遊びや季節の行事を通して参加者が気軽に相談できる場を定期的に設けており、関係機関と連携を図りながら子育て家庭を支援している。</p> <p>地域交流推進事業においては、宮城野障害者福祉センターと共催で行われた恒例の「ボッチャ交流会」や音大生を招いての「わくわく音楽会」での乳幼児親子と小学生の交流等、地域交流や世代間交流の場を提供するとともに子ども達が地域と関わりながら育つ環境作りに努めている。宮城野区文化センターに子ども達が作成したこいのぼり、ウインターツリーが展示され、児童館の活動を地域に広める機会となっている。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、館庭や遊戯室で運動遊びの時間を日常的に設けている。遊びの内容を子ども達が相談して決める等、主体的に生活できるように支援している。またおやつは登館時間や遊び、生活の流れを考慮して時間や環境を整えており、子どもが落ち着いて食を楽しめるよう配慮されている。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):こども若者局こども若者支援部児童クラブ事業推進課